

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に加えて、基本方針を作成することでより明確化を図っている。毎朝、利用者とともに復唱することにより共有をし、ひだまり通信にも掲載することで地域にも発信している。	わかりやすい理念のほか基本方針も作って職員にも利用者にも理解しやすいように努力している。見えやすい場所(洗面所、スタッフルーム、スタッフのトイレ)などにも掲示されている。さらに当番職員のリードで利用者も斉唱してみんなで共有していることがわかる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的にはない。だが、夏などは近所から野菜の届け物があったりする。交流の場が持てるように、年間行事計画で場の設定をしている。	6月から11月まで5回の行事計画に地域やボランティアを含めた交流がある。地域のボランティアグループこだま会の支援が大きい。また大新田町の地域の人たちとの焼き肉会などで年1回地域交流会を開催して親交を深めている。また年2回の家族会も利用者支援の実態を理解していただけるいい機会になっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用申し込みの際などに困りごとの聞き取りをして相談援助できるように努めている。幼児向けの紙芝居を作成したり、要請があれば啓蒙活動に参加している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	重要な場だと認識しており、決断が必要な時や、方向性を決める際の審査機関として機能している。	2ヶ月に1回開催しており、施設運営の方向性を決める会議として位置付けている。家族会から1名、知見者を次年度より1名加えてゆく予定である。会議の記録は丁寧にとめられており事業検討の資料として有効である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	保険者直轄であるため、些末なことまで相談できる関係性の構築はできている。	北アルプス広域が運営していることもあり、大町市との連携も十分に取れている。電話などでの相談で解決できる事案も多く、早い時点での解決ができている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な勉強会は行っている。運営推進委員に身体拘束廃止委員を兼務してもらい身体拘束への取り組みや研修内容などの報告を行っている。特にスピーチロックについては繰り返しの研修を行っている。	運営推進委員に身体拘束廃止委員も兼ねてもらい年4回は報告と研修を行っている。スピーチロックについては特に注意を払っており、利用者の自主性を重んじている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な勉強会は行っている。特に声かけやスピーチロックが心理的虐待にならないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的な勉強会は行っている。過去に日常生活自立支援事業を利用した利用者が何名かおり、後見人制度の利用を働きかけた事例もある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、提供する情報量が膨大であり十分な説明をしているつもりだが、理解を得られているか尋ねられるとわからない。改定の際は、家族会などを利用して十分に納得できるような説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関には投書箱を設置している。年2回の家族会の時には事務局が外して家族間で意見交換できる場を設けている。また、秋の家族会には運営推進委員も同席して意見の吸い上げをお願いしている。	投書箱は設置しているがほとんど意見は投書されない。10月の運営推進会議には家族全員に参加していただき意見をお聞きした。年2回の家族会の開催、4月には家族のみのフリートーク、年間行事を家族会で決定するなど、意見の吸い上げに向けた努力が感じられる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回の会議の時に、機会を設けている。また、会計年度職員については年1回の更新時の面接の際に意見を言える場が提供されている。	月2回の職員会議、カンファレンスを勤務時間内に行い、パート以外の方は全員参加している。1時間半の会議で必要な伝達を行い意見の吸収に努めどうしても参加できなかった人、パートの方は会議記録を必ず閲覧するようにしており、全員の閲覧印が押されている。	良いサービスを継続するための職員のスキルアップ、又体制整備について検討し、ゆとりある人員配置を希望します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年から年次休暇に加えて、療養休暇が取得できるようになった。所持資格が給与に反映され、賞与の支給など待遇改善は行われている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修において行われている。ただ施設外研修になると研修費との兼ね合いもあり困難な状態である。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナで一時期途絶えたが、グループホーム連絡会でネットワークを作り上げている。その中で研修会を企画したりサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	インテークの段階で把握できるように努めている。入所判定時の面接においては、判定基準にも大きく関わるためそのようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	同上。ただ、面接時に家族の立ち会いがない場合も多く、その時にはケアマネや施設職員からの聞き取りからくみ取る努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努力している。導入時もそうだが、初期において本人の様子を見極めて先手での支援をおくれるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	意識しているが、ここが難しいと常に感じている。職員個々の感じ方や価値観でずれも多い項目だと思う。接し方や行動から意識して目を合わせて行動することを大事にしたい。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	心がけている。コロナで関係性が希薄となった感はあるが、また信頼関係の構築に努め共に支えていきたいと思っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所してしまうとご近所との関係は途切れがちとなることは否めない。外出時に自宅に立ち寄りご近所と関わられるような支援もしているが難しい。	たまたま出かけた時などに、話をする機会はあるが、近所との関係を継続することは難しい。なじみの美容院は公用車にて送迎されている。病院などへの通院はタクシー送迎に職員が同行している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	努めている。小さく閉鎖的になりやすい空間だからこそ、人間関係の把握に努め関係作りに気を配っている。		

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)		
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所してしまうと途切れてしまうことは否めない。然しながら、何かあれば連絡をくれる関係性はできている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。聞き取りながらも、表情や声のトーン、記録などから把握できるようにしている。	入所時にセンター方式により記録している。随時感じられたことについて埋めていくようにして利用者の思いに寄り添っている。ただ十分な見返しがされていないところがある。	利用者の生活状況も少しずつ変化していくので思いに沿ったサービスを行うには定期的に見返していくことが必要と思われるので、適時点検を希望します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の活用により、入所時には把握して言動に対する背景を探ることもしている。新たに得られた情報については記録に残して共有化を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている。個々の状態については概ね把握できている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人からのモニタリング、家人との来所時の会話の中から意向の抽出を図るとともに、記録から浮かんでくる課題を検討してプランに反映している。	モニタリングは管理者が行い、ミニカンファ、勉強会などを通じてケアの方向づけをしていく。家族には面会時、電話などで意向をうかがっている。家族会の意見なども参考にしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一番有効なアセスメントツールとして認識しており、そのようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々状況に合わせて、勤務時間をずらしたり、残された夫のケアも視野に入れたり柔軟に対応してきている。		

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)	
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接の鹿島荘や地域のこだま会は重要な地域資源として認識している。陶芸の家や八百屋、お寿司屋さんなど関わってくれているところは多く、協働して個々を支えていると思っている。	
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	この点についての家族の評価は高いと思っている。内科、精神科、歯科の定期診に加えて往診もあり緊急時の対応も確立し、情報の共有もはかれている。	医療との連携は十分に取れており家族満足度も高い。緊急時の搬送など本人家族の意向を尊重して丁寧に対応ができています。内科、歯科、精神科など専門医の定期往診や、通院介助も利用者に応じてコーディネートがしっかりできています。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	できていると考える。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大町病院については訪看に入ってもらうこともある。医療ソーシャルワーカーと連絡を取りながら、必要であればカンファレンスの開催を働きかけ早期退院などに努めている。	
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に説明し意向の確認に努めている。できること、できないことを伝えその状態になった時に共に支え合える関係を目指している。	入所時に、重度化した場合の対応、又延命措置などについて利用者又は家族から同意書を得ている。またターミナルの定義について、緊急時の搬送の有無などについても説明をして確認している。当面、グループホームの風呂に入れなくなったときは、特養などへの住み替えをお願いしている。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎年救急処置法の研修を受けている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年3回の防災訓練を行い、大新田町とは防災協定が結ばれている。BCP机上訓練や演習も行っている。	ハザードマップから外れているため、ここにいるのが一番安全と認識している。鹿島荘と共同で災害支援にあたることで市役所との調整もできている。今年は地震を想定して火が使えるなくなった時の対応について訓練している。防災用のヘルメットが整備され常備食料飲料など3日分が用意されている。業務継続計画の作成、訓練は実施している。

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)	
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	心がけているが、慌ただしくなると言葉かけがぞんざいになってしまう。努力だけではだめだと思う。	出来ているというようになるまで研修し、柔らかくテクニックを覚えるようにしている。お互いにその場、その場で声を掛け合い、利用者の尊厳とプライバシーへの配慮ができていないか確認しあっている。特にスピーチロックになるような言動には注意をしている。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	この点は意識して場の設定ができるように心がけている。職員全員の立ち位置と意識改革を進めている途中である。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課に沿ってその日を送る形である。その中で個々の生活スタイルを把握して活動を担保できるように援助している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援はできている。定期的に美容院に外出し、カラーリングやカットを行っている。食べこぼしがあれば速やかに更衣し、普段の身だしなみに気を配り、外出時にはふさわしい装いで出かけられるようにしている。	
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	主に昼食になるが、個々の能力に合わせて一緒に準備や食事、片付けなどを行っている。	管理栄養士の作成したメニューを基に担当が献立を作り、すべて手作りで提供している。口腔ストレッチをしてから食事をとるが利用者はほぼ完食している。誕生日などの行事食は、介護職員の栄養士に作ってもらっている。米を研いだり、野菜切りなど、できることは利用者にも参加してもらっている。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各人について把握しており、適切な支援を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	各人の能力と、歯科医の指導により行われている。	

グループホームひだまりの家

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握しており、立位がとれればトイレでの排泄支援を行っている。リハビリから布パンツへ3名が移行できている。	リハビリから、布パン、失禁パンツに移行した人がいたが一人は元に戻った。個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導、トイレ介助などを行っている。オムツ・パットなどは有料なのでできるだけ節約できるように気を付けている。排泄の記録は全部残している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	理解している。内科医と相談のうえ排泄コントロールが良好に行われるように支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	以前は毎日の入浴だったが、現在は諸事情により週3回の入浴になっている。また、追い焚き機能がないため好きなタイミングでの入浴は困難。入浴は儀式だと捉え本人の入浴スタイルに合わせて支援している。	浴槽は広く、3人ずつ入浴してもらっている。介護士のチームワークで効率よく、しかもゆっくり入浴できている。月、水、金と週3回入浴してもらっており、入浴拒否の人はない。比較的元気な人が多く、この風呂に入れない人は施設替えのめどとなる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	できている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	できている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	支援の中心になるものだと捉えている。そのため、そのように支援できるように努力している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望では難しい。勤務表に組み込んで職員を手配する中で戸外に出られるように支援している。地域の方とは事故等の対応もあり難しい。	外出計画もあるが、その時々での職員対応、天気などで適時に対応している。家族と外出する人もある。2ヶ月に1回ぐらいの割合で美容院外出もある。温泉入浴の外出ではみんなとても喜んでお昼も食べてきた。	

グループホームひだまりの家

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)	
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	盗った、盗られたのトラブルのため常時お金を所持することはしていない。八百屋が月2回外販に来る際個人の財布にお金を入れて支払いの支援をしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を出すことを支援してみたが難しかった。電話については、家人から電話があった時に代わって話ができるように支援している。	
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特に気を配っている。職員も環境の一部と考え、出す音への注意喚起を行い、温度やにおい等はリーダー業務に組み込んでいる。季節感については壁面で工夫している。	食堂兼共有スペースは広く、みんなでテレビを見る畳とローソファのスペースもありゆっくりできる空間である。壁面は利用者さん、職員の共同作品が広がり温かい雰囲気にも包まれている。スタッフも騒音の一部と心得、におい、音にも気を配っている。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	以前は工夫して作り出していたが、利用されることがなかった。一人になりたい時は居室がその場所になっている。	
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時になじみの物をお願いしているが、家具などは難しい。箸や茶碗など馴染んだ物についてはできている。	居室はかなり広く、利用者さんが自分の好きなものを配置して個性のある部屋になっている。ペットのみではなく畳に布団を敷いている方もあり、好みの生活スタイルができている。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できている。	